



風船には願いカードを付けました

地域の伝統行事



1月27日、要小学校（松金孝之校長）の恒例行事「正月お楽しみ会」が、全校児童121人と保護者、地域の住民が参加し、要小校庭で行われました。

子どもたちと地域のお年寄りとの交流会では、ベーゴマ・かるた・すごろく・お手玉など、昔遊びで楽しく遊びました。

その後、校庭ではつきたてのお餅を味わいました。今回、餅つきに使われたもち米は、昨年子どもたちが種から栽培し、収穫したものです。臼と杵を使い、皆で代わるがわるついたお餅は、特別の味です。

そして、参加者全員で願いを託した風船を飛ばしました。4年生の岡崎文香さ

ベーゴマはおじいちゃんにおまかせ！



分乾燥させてから前日に小屋を組み立てました。準備が大変ですが、この地域に伝わる伝統行事。少なくともった地域の行事をみんなですべて守っていききたい」と話していました。

子どもたちは「かるたやベーゴマなどでおじいちゃんやおばあちゃんと遊ぶことができて楽しかった」「きなこもちがおいしかった」などと感想を話していました。

正月の15日前後を「小正月」と言い、昔から農作物の豊作などを願うて行われる行事で「どんど焼き」といわれる火祭りです。

このあたりでは「わあほい」「または」「鳥追い」などと呼ばれています。「どんど焼きの火にあたると、病氣にならず長生きする。」「どんど焼きで焼いた団子やもちを食べると病氣にならない」。そして、「正月の書き初めを燃やし、書き初めが高く燃え上がると字が上手になる」という意味があるそうです。それは、どんど焼きで、年神がこの火にのって帰れるとの言われがあるからだそうです。

近くのおじいちゃんたちの話によると、昔は、子どもたちだけで田んぼなどに竹などを集めて小屋を作り、餅を焼いて遊んだそうです。そして、今頃になると、あちこちの田んぼからたくさん煙があがったそうです。



→ 楽しかった餅つき